
祈り

s h o w

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

祈り

【Nコード】

N6359F

【作者名】

s h o w

【あらすじ】

彼女は彼を想った。しかしそれは驚くほど無力なことなのだ。

彼女は、広い海の片隅の小さな島に暮らしていた。

空は高く、草木は繁り、
それはそれは美しい島。

彼は、広い海の真ん中の小さな島に暮らしていた。

彼女は丘の上のぼる。

陽射しを浴びた海はきらきらと光り、彼女はまぶしそうに目を細めたが、水平線の向こうは見えなかった。

それでもこの空の下には彼がいる。彼女は微笑む。

海を臨むその丘が大好きで、緑の絨毯を駆けた。

空を掴みたくて、高く高く何度も跳ねた。

僅かに掌に掴んだ風を大事そうに胸に抱いた。

海が荒れた。

空が泣いた。

彼女は彼の悲しみを見た。

彼女は丘の上にのぼる。

強い冷たい風が吹き付け、
彼女は目を細めたが、水平線の向こうは見えなかった。

それでも海を臨んで丘の上に立った。

進むことも、戻ることさえもできないまま。ただそこに立っていた。

疲れた鳥を運んできた風に言葉をのせてみることもあった。
しかしそれになんの意味があるのだろう。それは奢り。幾程のものが
零れ落ちるのだろう。

この手が風を掴む、

この手で何かを愛する。

そこになんの意味があるというのだ。

この足が丘を駆ける、

この足が私を支える。

そこになんの意味があるというのだ。

この手はあなたを守れず、

この足はあなたのもとへ駆けけらず。

それならばいつそ、この手もこの足も海に深く沈んでしまえばいい。

頬を伝う涙は、海に吞まれた。

彼の手に触れたいと、

彼の手を強く握りたいと、

せめて

彼女の手と彼女の手が

強く強く繋がった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6359f/>

祈り

2010年10月17日08時15分発行